

令和3年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和3年2月10日

上場会社名 中日本興業株式会社 上場取引所 名
 コード番号 9643 URL http://www.nakanihonkogyo.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)服部 徹
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 感動創造支援本部副本部長 (氏名)加藤 康章 (TEL) (052)551-0274
 四半期報告書提出予定日 令和3年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年3月期第3四半期の業績（令和2年4月1日～令和2年12月31日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年3月期第3四半期	1,383	△55.4	△313	—	△239	—	△247	—
2年3月期第3四半期	3,102	9.6	220	59.5	241	61.2	165	66.8

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
3年3月期第3四半期	△466.56	—
2年3月期第3四半期	311.39	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
3年3月期第3四半期	4,426	3,588	81.1
2年3月期	4,715	3,782	80.2

(参考) 自己資本 3年3月期第3四半期 3,588百万円 2年3月期 3,782百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
3年3月期	—	20.00	—		
3年3月期(予想)				30.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和3年3月期の業績予想（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,100	△44.9	△390	—	△310	—	△320	—	△602.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	3年3月期3Q	540,000株	2年3月期	540,000株
② 期末自己株式数	3年3月期3Q	9,226株	2年3月期	9,226株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	3年3月期3Q	530,774株	2年3月期3Q	530,848株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
追加情報	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、個人消費や企業活動に甚大な影響を与え、人々の生活様式については余儀なく変化を強いられました。「緊急事態宣言」の解除後は、経済に持ち直しの動きがみられたものの、同感染症拡大の収束は見通せず先行き不透明な状況で推移しました。

当社では、同感染症が拡大し始めた昨年2月末頃より映画館の来場者が減少し始め、さらに、映画公開の中止や延期、4月に政府から発出された「緊急事態宣言」により大部分の事業所を臨時休業するなど、業績に深刻な影響を及ぼしました。

その後、「緊急事態宣言」が解除となり、マスクの着用、アルコール消毒液の設置、サーモグラフィーによるお客様の体温の確認、施設内の換気など一層の感染防止対策を施しながら営業を再開いたしました。このような状況下、当社はより一層の効率化を図るとともに、お客様の感動の創造に努めました。

この結果、売上高は13億83百万円(前年同期比55.4%減)、営業損失は3億13百万円(前年同期は営業利益2億20百万円)、経常損失は2億39百万円(前年同期は経常利益2億41百万円)、四半期純損失は2億47百万円(前年同期は四半期純利益1億65百万円)となりました。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

【シネマ事業】

当事業では、新作公開が少なく旧作を上映するなど番組編成にも影響が及び、その後4月11日から5月21日までの41日間の休業を余儀なくされるなど、未曾有の状況でした。営業再開後は政府、自治体および関係団体からのガイドラインに従い、座席間隔を空け、半分の座席にて営業を行いました。邦画を中心に新作映画も公開されるようになり、10月には「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」が大ヒットし高稼働しましたが、全体の興行としては大変厳しい成績でした。また、近年着実に売り上げを伸ばしていましたライブビューイングについても、公開すべき作品もほとんど無い状態が続いています。

当第3四半期累計期間の主な上映作品としまして、邦画では、7月公開「今日から俺は!! 劇場版」、「コンフィデンスマンJP プリンセス編」、8月公開「糸」、「事故物件 怖い間取り」、10月公開「浅田家!」、12月公開の「新解釈・三國志」、洋画では、6月公開「ドクター・ドリトル」、「ランボー ラスト・ブラッド」、9月公開「ミッドウェーイ」、「TENET テネット」、12月公開の「ワンダーウーマン1984」、アニメでは、6月公開「千と千尋の神隠し」(再映)、8月公開「劇場版『Fate/stay night [Heaven's Feel]』III. spring song」、「映画ドラえもん のび太の新恐竜」、9月公開「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」、10月公開「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」、11月公開の「STAND BY ME ドラえもん2」、ODS(映画以外のデジタルコンテンツ)では、9月公開の「BREAK THE SILENCE: THE MOVIE」、「僕たちの嘘と真実 Documentary of 樺坂46」などの番組を編成いたしました。

また、飲食部門の名古屋市千種区の「覚王山カフェ Ji.Coo.」、名古屋市中村区の「LA BOBINE ガレットカフェ」では、食材にこだわったメニューを開発するとともに、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に図りながら、お客様に満足いただける店舗創りに努めてまいりました。

この結果、当事業では売上高は12億55百万円(前年同期比56.0%減)、セグメント損失は2億73百万円(前年同期はセグメント利益2億5百万円)となりました。

【アド事業】

当事業は、同感染症拡大に伴う映画関連の業務・イベント等の中止が重なったことにより、シネマ事業同様に影響を大きく受けました。しかしながら、コインパーキング等のサイン工事につきましては、影響は少なく堅調に推移いたしました。

この結果、当事業では売上高は1億28百万円(前年同期比49.0%減)、セグメント損失は39百万円(前年同期はセグメント利益15百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は44億26百万円となり、前事業年度末に比べ2億89百万円の減少となりました。主な要因は、流動資産の減少2億87百万円となっております。

負債合計は、8億37百万円となり、前事業年度末に比べ94百万円の減少となりました。主な要因は、固定負債の減少47百万円となっております。

純資産は、35億88百万円となり、前事業年度末に比べ1億94百万円の減少となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、令和2年11月12日に公表時から変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年3月31日)	当第3四半期会計期間 (令和2年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,067,524	643,270
受取手形及び売掛金	106,021	188,851
有価証券	300,000	300,000
商品及び製品	5,987	6,609
前払費用	29,961	28,826
預け金	25,951	45,374
その他	23,564	58,685
流動資産合計	1,559,011	1,271,619
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,122,700	1,046,206
構築物（純額）	1,363	1,139
機械装置及び運搬具（純額）	85,170	65,927
工具、器具及び備品（純額）	139,969	105,404
土地	695,913	695,913
有形固定資産合計	2,045,117	1,914,590
無形固定資産		
電話加入権	1,147	1,147
ソフトウェア	25,783	19,069
その他	280	247
無形固定資産合計	27,211	20,464
投資その他の資産		
投資有価証券	440,229	554,355
関係会社株式	10,000	10,000
差入保証金	573,144	554,513
長期前払費用	36,918	35,226
繰延税金資産	24,112	65,392
投資その他の資産合計	1,084,404	1,219,487
固定資産合計	3,156,734	3,154,543
資産合計	4,715,745	4,426,162

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年3月31日)	当第3四半期会計期間 (令和2年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	263,951	257,639
リース債務	52,289	42,001
未払金	4,724	2,493
未払法人税等	18,463	3,765
未払消費税等	726	-
未払費用	104,949	103,364
従業員預り金	9,359	4,950
賞与引当金	17,860	9,000
その他	44,166	46,164
流動負債合計	516,490	469,379
固定負債		
リース債務	98,456	68,754
退職給付引当金	71,232	67,801
長期末払金	28,600	25,200
資産除去債務	84,172	85,235
受入保証金	133,908	121,614
固定負債合計	416,368	368,604
負債合計	932,859	837,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	270,000	270,000
資本剰余金		
資本準備金	13	13
資本剰余金合計	13	13
利益剰余金		
利益準備金	67,500	67,500
その他利益剰余金		
配当準備積立金	218,555	192,016
別途積立金	2,380,000	2,380,000
繰越利益剰余金	809,350	561,714
利益剰余金合計	3,475,406	3,201,231
自己株式	△70,406	△70,406
株主資本合計	3,675,013	3,400,838
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	107,872	187,339
評価・換算差額等合計	107,872	187,339
純資産合計	3,782,885	3,588,178
負債純資産合計	4,715,745	4,426,162

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)
売上高	3,102,565	1,383,883
売上原価	1,612,752	715,964
売上総利益	1,489,813	667,918
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	50,516	19,255
人件費	448,185	373,019
賞与引当金繰入額	8,571	9,000
退職給付費用	5,862	5,281
減価償却費	141,239	116,539
地代家賃	304,761	247,589
水道光熱費	55,035	38,709
修繕費	4,690	8,421
その他	250,079	163,510
販売費及び一般管理費合計	1,268,941	981,325
営業利益又は営業損失(△)	220,871	△313,406
営業外収益		
受取利息	2,605	2,590
受取配当金	7,495	6,961
協賛金収入	10,085	9,345
助成金収入	-	55,851
その他	1,392	1,061
営業外収益合計	21,578	75,809
営業外費用		
その他	884	1,530
営業外費用合計	884	1,530
経常利益又は経常損失(△)	241,565	△239,127
特別損失		
固定資産除却損	-	11
臨時休業等による損失	-	83,716
特別損失合計	-	83,728
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	241,565	△322,855
法人税等	76,265	△75,219
四半期純利益又は四半期純損失(△)	165,299	△247,635

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期累計期間(自平成31年4月1日至令和元年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益計算書計上額
	シネマ	アド	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,850,448	252,117	3,102,565	—	3,102,565
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,850,448	252,117	3,102,565	—	3,102,565
セグメント利益	205,233	15,638	220,871	—	220,871

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自令和2年4月1日至令和2年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益計算書計上額
	シネマ	アド	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,255,357	128,525	1,383,883	—	1,383,883
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,255,357	128,525	1,383,883	—	1,383,883
セグメント損失(△)	△273,670	△39,736	△313,406	—	△313,406

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

追加情報

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の収束時期等を正確に予測することは困難な状況ですが、本感染症の影響については、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、令和3年3月期中は一定程度残るものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っています。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確実性が高いため、今後の実際の推移がこの仮定と乖離する場合には、当社の経営成績及び財務状態に影響を与える可能性があります。